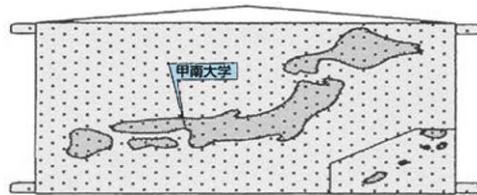


Zephyr

第49号

ゼフィール・にしかぜ


<http://www.kilc.konan-u.ac.jp>

《特集*「海外語学講座」参加と大学生生活》

所長からのメッセージ「海外語学講座」を活用した“海外での生活体験”の勧め	中村 典子	1
〔英語〕「海外語学講座」未来につながる自己成長への扉	吉田 佳代	2
〔ドイツ語〕「海外語学講座」参加と大学生生活	藤原三枝子	3
〔フランス語〕フランスの海外語学講座参加と大学生生活	ディディエ・シッシュ	4
〔中国語〕海外語学講座（中国）の人生における意味	石井 康一	6
〔韓国語〕「海外語学講座」参加の意味合い（韓国語）	金 泰虎	7
〔日本語〕夏期日本語集中講座	富阪 容子	8

「海外語学講座」を活用した“海外での生活体験”の勧め

国際言語文化センター所長 中村 典子

グローバル化が進む現代において、学生のうちに「海外へ行きたい」と考えている方は少なくないでしょう。本学でも長期留学に挑戦する人の数は次第に増えています。とはいえ、長期留学には一定の語学力の証明が必要ですし、半年以上前から綿密な計画を立て、VISAなどを取得しなければなりません。しかし、長期留学に行かなくても、“海外での生活体験”ができる素晴らしい講座があるのでご存知ですか？

国際言語文化センターでは、「海外語学講座」としてイギリス・アメリカ・カナダ・オーストラリアといった英語圏に約4週間滞在するプログラム、「海外語学講座」としてドイツ・フランス・中国・韓国に3～4週間滞在するプログラムを開講しています。いずれの講座も現地での語学研修を主としますが、ホームステイ先や学生寮に滞在して勉強するため、現地の人々の中で目標言語を使って生活することになります。特にホームステイの場合は、個室を与えられ、家族の一員同様に扱われる場合がほとんどです。現地の家庭料理を堪能できるという嬉しい面もありますが、日本とは異なるさまざまな生活習慣やルールを目の当たりにし、多少の違和感や軽いカルチャー・ショックを感じるようになるでしょう。例を挙げれば、共用廊下の電灯が1分で自動的に切れる、夜遅い時間にはシャワーに入れない、シャワーの時間が長すぎないよう気をつけなければならない、日本に関していろいろ質問をされる、今日あった出来事について話を聞かれるetc...このようなちょっとした「異文化体験」を積み重ねることにより、現地の生活に少しずつ慣れ、また、日本での生活との違いについて考えることになるでしょう。例えば、外国には清涼飲料の自動販売機はほとんどありませんが、日本では至るところに設置され、24時間電力を消費し続けています。また、人口が減っているのに、24時間開店しているコンビニの数は増え続けています。3.11以後、日本の電力を取り巻く状況は激変しました。一層の節電が求められる現在、海外の人々がどのように生活しているのかを観察する絶好のチャンスです。身近な問題から、日本と世界の未来を考える姿勢を身につけてください。

そして何よりも、海外では「何事も交渉次第」という面があります。日本では、スーパーやコンビニで一言も喋らなくても買い物ができますが、海外ではそうではありません。（例えば、フランスのスーパーでは、客のほうから「Bonjour!」とにこやかに挨拶し、品物をすべて自分で取り出してレジ横のベルト・コンベアに並べなければなりません。）口頭でコミュニケーションすることが、すべての人間関係の始まりなのです。できる限り目標言語でコミュニケーションしようとする意志を持て

ば、皆さんの口頭表現能力は飛躍的に伸びます。最初、間違えるのは当然なので、気にせずに、次回
はうまく表現できるように留意してください。

「海外語学講座」を活用し、約1ヶ月間、“海外での生活体験”をすることで、外国語で気軽にコミュ
ニケーションできる能力を伸ばし、就職活動や資格試験に役立ててください。

「海外語学講座」未来につながる自己成長への扉

～海外で学んだ先輩たちの声を聞いてみよう！～

国際言語文化センター講師 吉田佳代

大学の4年間はあっという間に過ぎてしまいます。この期間に様々なことを経験し、いかに自分を
成長させるかが卒業後の可能性を広げることにつながります。その手段の一つとして、海外語学講座
を活用し、今の学生生活をさらに充実させるというのはいかがでしょうか。

この講座への参加をすすめる主な理由を以下に紹介します。

- その1：約1ヶ月間集中して外国語を勉強することができる
- その2：夏休みや春休みを有効に活用することができる
- その3：まずは期間限定で海外生活を通して異文化が体験できる
(特に初めての海外生活が不安な場合)
- その4：日本では経験できない何かを学び、感じるすることができる

海外語学講座はほんの1ヶ月程度ですが、申し込んだその時からあなたの中で何かが変わるはずで
す。外国へ行く前に英語をもっと勉強しなければならないという意欲が高まり、英語学習に明確な目
的が加わるでしょう。また、帰国後も海外生活で体験したことが刺激となり、さらに英語力を伸ばし
たいと感じる人が多いようです。本当にそうなのでしょうか。では、実際に海外語学講座に参加され
た先輩方の声を聞いてみましょう！

(1) 英語力の向上に役立つ、英語を学ぶ大切さに気づく

- ◆1ヶ月という短い期間だったので最初はそんなに英語の力は伸びないだろうとも思っていました。し
かし、日本に帰ってきて英語の授業を受けているとき、カナダに行く前の自分の英語力より格段に進
歩しているのをすごく感じました。一番大きかったことは、外国人に英語で話しかけられても、おど
おどせずに自然と会話できるようになったことです。

留学先：カナダ・ピクトリア大学 A.Sさん(法)

- ◆英語をただの科目として捉えるのではなく、言語としての生きた英語を感じることができました。育
った国も環境も言葉も違う人たちが、辛いことや楽しいこと、様々なことを共有することを可能にす
る世界の共通語である英語の素晴らしさを知りました。そして、人との繋がりや出会いの素晴らしさ
も改めて実感しました。

留学先：カナダ・ピクトリア大学 M.Yさん(文)

(2) 異文化を体験し、外国の友人をつくり、自分の国について学ぶ

- ◆クラスには中国、ロシア、スペインなど様々な国籍の生徒がいて、その人たちと交流できたことはと
てもいい思い出です。授業を通してその国の文化を学んだり、私が想像していたその国の典型的なイ
メージとは今と全く違くと本人に教えてもらうこともありました。中には日本のアニメ、食文化に興
味を持っている人もいて、外国人が思う日本のイメージも聞いて面白かったです。以前と比べると新
しい世界観が広がりました。

留学先：イギリス・リーズ大学 R.Nさん(経営)

- ◆日本語が母国語ではない海外に行って、初めて言語というものが一種のアイデンティティであることに気づいた。“海外に行って気づく日本”というものも新鮮な気持ちが出て改めて日本を考えてみるきっかけにもなった。
留学先：イギリス・リーズ大学 N.Sさん（文）

(3) 帰国後：考え方、英語学習に対する意識が変化する

- ◆最初は不安しかなく途中で後戻りしたいと思うことがありましたが、1ヶ月の短期留学を終えて今本当に参加して良かったと思っています。この1ヶ月で私は英語の重要性、自分の将来、国境を越えたコミュニケーション、異文化などさまざまなことについて考えさせられました。そして、日本に帰ってきて私の中で1ヶ月前と大きく英語に対する姿勢や考え方が変わりました。
留学先：アメリカ・カリフォルニア大学 サンディエゴ校 K.Hさん（法）
- ◆これから英語の授業では積極的に英語を話そうと意識が変わってきました。そして、たくさん勉強をして、また絶対にビクトリアに留学または旅行で帰りたと思います。本当に濃くて充実していた1ヶ月間の最高の留学でした。
留学先：カナダ・ビクトリア大学 R.Yさん（マネジメント創造）

海外語学講座は英語圏の場合、カナダのビクトリア大学【夏期】、イギリスのリーズ大学【夏期】、アメリカのカリフォルニア大学（サンディエゴ校）【夏・春期】、オーストラリアはクイーンズランド大学【春期】で実施されています。留学先や研修期間など自分に合ったコースを見つけて、今の大学生活に組み込めるように計画を立ててみてはどうでしょうか。



カリフォルニア大学（サンディエゴ校）



リーズ大学

私自身も大学3年生になる前の春休みを利用して、イギリスのブライトンという街で1ヶ月間の語学留学を体験しました。最初は不安で一杯の重いスーツケースと共に日本を旅立ちましたが、1ヶ月後には沢山の楽しい思い出と希望を胸いっぱい詰めて帰国しました。今改めて、あのときの第一歩を踏み出していなければ、現在の自分はなかったのではないかと思います。

留学で得た経験や知識は必ず自分の自信へとつながり、かけがえのない財産となります。決して楽しいことばかりではなく大変なこともあるでしょう。ですが、自分の将来への投資と考えて、一人でも多くの甲南生が海外へ飛び立ち、新しいことにチャレンジしてほしいと思います。

「海外語学講座」参加と大学生活

～ドイツで世界の人々と出会う体験～

国際言語文化センター教授 藤原三枝子

8月上旬から9月上旬にかけての1カ月間、ドイツ・ライプツィヒ大学で開催されるドイツ語講座のテーマは“Sprachen bauen Brücken.”「ことばは架け橋」です。ことば（Sprachen）しかもいろいろなことばの出会いが、人と人、心と心をつなぐ橋（Brücke）にも、文化と文化をつなぐ橋にもなります。また、そこで体験が、あなたを新しい世界へと渡してくれる橋にもなるでしょう。

ライプツィヒ大学で開催される講座には、世界中から多くの学生さんたちがドイツ語を学びドイツ文化を肌で感じるために集まってきます。フランスやイタリアなどヨーロッパの国々の学生さんたちだけでなく、中国や韓国、台湾などアジアの学生さんたちとの新しい出会いもあるでしょう。大学寮では隣に住んでいるドイツ人学生との交流もあるかもしれません。ドイツ人の友達を招待して日本食パーティを開いた皆さんの先輩もいました。日常生活では、顔なじみになったスーパーの店員さんや、行きつけのカフェのマスターと暖かい交流が生まれる場合もあるでしょう。ドイツでのこうした人々との出会いは、みなさんの大学生生活を平凡なものから新鮮で生き生きとしたものに変えてくれるに違いありません。



ライプツィヒでは、月曜日から金曜日までたいていはお昼過ぎまで学校があります。授業の内容は、コミュニケーションに重点を置いたものから、文法や発音練習などさまざま。また、午後は、写真や料理、音楽など自分の好きなテーマのアクティビティーに参加して、クラス以外にも友達の輪を広げることができます。週末は学校企画の遠足や、自分たちで近くの都市に電車で行くこともできます。また、授業後の自由時間には買い物に行ったり、カフェに行ったりしているうちに、出発前の心配がうそのように、ドイツが皆さんにとって住みなれた土地のように感じられるかもしれません。

これまで多くの皆さんの先輩たちが、このドイツ語海外語学講座に参加し、その後、ベルリン・フンボルト大学で交換留学生として1年間勉強しました。法学部の古川明香さんもその一人です。古川さんは一体どのような気持ちから海外語学講座に参加したのでしょうか？ 帰国後、古川さんの大学生活はどのように変わったのでしょうか？ 大学生活において、海外で勉強することの意味を語ってもらいました。



私の大学生活と海外語学講座

法学部 古川明香

4つある第二外国語のうち、「何となく」ドイツ語を選んだことが、私のその後の大学生活に大きな影響を与え、こんなに豊かにしてくれることになるとは、選択当時考えてもいませんでした。何となく勉強を始めたドイツ語でしたが、その面白さに気付き、いつかドイツへ行き、習ったドイツ語を試したいと思うようになりました。いきなりドイツに一人で行くわけにもいかずどうしたものかと思っていたときに、海外語学講座の存在を知りました。その時からアルバイトでお金を貯めはじめ、とうとう念願のドイツ行きの夢を叶えることができました。この講座では引率して下さる先生や学年学部を超えた仲間と共に行き、現地の大学で世界各国の学生が集まる中で勉強や課外活動ができました。私の場合、この経験を機に更にドイツ語を勉強したいと思い、1年の交換留学を決意しました。あの時の海外語学講座参加が私の大学生活を積極的な取り組みに変えてくれたと思っています。

フランスの海外語学講座参加と大学生活

国際言語文化センター教授 デイディエ・シツシュ

現在、甲南大学は、フランスのトゥール市で海外語学講座を実施しており、この制度を利用して、学生たちはフランスへの短期留学ができます。

では、この海外語学講座は、大学生活に何をもたらすのでしょうか？

まず、言うまでもなく、理論的に習ったフランス語を実践することです。日常生活で現地の人々とフランス語を使いながらコミュニケーションを図り、学校では世界中から集まった学生達と勉強し、意見を交換する機会がもてます。授業に参加しながら他の学生達と自分を比べることで、ある程度の自己評価ができます。

フランス語でコミュニケーションを図ろうとする時、対話する相手と自分との関係が日本にいる時と全く違うことがわかるでしょう。フランスでは、人間関係にあまり上下という意識がありません。年上の人への敬語、店員の客への敬語などはあまりありません。これは、フランスが日本のような縦社会ではないことに由来しています。フランス語では二人称の違いで対話者間の距離が表されます。VousからTuに変わるのに規則はありません。同じクラスの仲間であれば、相手が何歳であろうが、最初からTuが使われることでしょう。また、日本社会のように組織内のポジションが個人のアイデンティティーに代わることはなく、先生もいわゆる「先生」という呼び方ではなく、Monsieur, Madame, Mademoiselleで始めて名前を続けます。このようなことは、なかなか日本人同士では練習できないことで、現地で実践するのが一番です。

また、語学力の向上とは別に、個人としての資質が豊かになることは確かです。今まで経験したことのない環境で様々な体験をすることは、それがたとえ不快なことであってもプラスになります。日本社会で、はっきり言わなくてもわかり合える家族や友人たちに囲まれて生活している学生たちは、自分と同じバックグラウンドを持たない相手と話すことで、説明する努力を強いられます。それは、当たり前だと考えてきたあらゆることを「意識的」に見直して再認識することなのです。20歳前後の若いうちにこの「知的努力」をすることは、その後の人生感に大きなプラスになるといっても過言ではありません。

さて、頭脳をフル回転させて知的努力をすることは大事ですが、フランスにはもっと感覚的に楽しいことがたくさんあります。まず、ヨーロッパの夏を是非体験してほしいのです。もちろん気候の変動で、思わぬ寒気や雨に遭いがっかりすることもありえますが、大概、湿度が低く日没の遅いフランスの夏は日本よりも快適です。この快適さを知らずに、フランス社会の「バカンス信仰」や給与所得者に5週間の有給休暇が与えられている労働事情は理解できないでしょう。また、ホームステイ先の家庭の住宅事情にもよりますが、フランス的「暮らしの美」暮らしの楽しみ方を直に見ることは、大いに学生の感性を刺激してくれることと思います。フランス滞在中の大事なことは、フランス人（人種や出身国に関係なく）の人生観に触れることであり、「知性」と「遊び心」この2つの資質はキーコンセプトだと言えるでしょう。語学留学といっても真面目だけでは足りません。是非、自分を開放して楽しむことも学んでほしいと思います。

最後に、今年の留学生たちは、今までと違う状況に置かれるのではないかと察します。日本人に対する世界中の関心が非常に高まっているからです。震災後の原発事故で、フクシマの名はヒロシマ同様に国際社会に浸透しました。原発に関する意見など、学生たちの個人の意見を聞かれることも多くなるでしょう。「わからない」では、通用しません。日本の文化や芸術についての説明を暗記していくだけでは足りません。今、この時代を生きる個人としての「意識」が問われるのです。



エッフェル塔



パリの公園

海外語学講座（中国）の人生における意味

国際言語文化センター准教授 石井 康一

海外語学講座（中国）の人生における意味を、かつて講座に参加した卒業生・在學生に聞いてみました。

（2008年参加・現在北京郵電大学に交換留学中・男性）海外語学講座に参加した当時は、1年間基礎中国語を勉強しただけで、話すことすらできないレベルでしたが、中国での勉強はどこもかしこも中国語、その上、授業では一番基礎である発音から丁寧にやっていたき、海外での学習は自分にとって大変貴重な体験でした。この講座の経験を通して中国語に対する興味が深まり、積極的に中国人と交流するようになりました。



西安・兵馬俑のスケールの大きさに圧倒されそうです

（2007年参加・女性）親切に指導して下さる先生方やチューターの学生さん、放課後の探索やショッピング、美味しい包子や餃子、規模の大きさに圧倒される兵馬俑や万里の長城などなど、刺激的で魅力的な出会いの連続で、とても有意義な時間を過ごせました。中国や中国語の面白さ・自力で異国を旅する楽しさを直接体験して視野が広がり、帰国後・卒業後も交流し合える仲間達と出会うことができました。

（2001年参加・女性）教科書では学びきれない中国の衣食住を肌で感じることができました。百聞は一見に如かず！ 帰国後は中国語の授業が更に面白くなりました。また中国にまつわるニュースやTVを見ていても共感できるので楽しみが増えます。

（2001年参加・女性）実際に中国に住み、現地の先生や近所のお店の人達と触れあうことによって自然と中国語が身に付いていく喜びは、その後の人生の方向を決めました。職場で中国語を使えることによって中国人のお客様からもとても喜んでもらえることができ、働く自信にも繋がりました。

（2007年参加・女性）卒業後に勤めた会社を辞めて最近再就職を決めたのですが、応募者多数の中でまさかの採用で、なぜ私かと聞いたら、面接で語学への熱意と海外語学講座の経験を話したのがよかったそうです。

（2001年参加・女性）西安では中国の歴史の深さを肌で感じることができました。私は現在、高等学校で国語を教えているのですが、漢詩や古文の授業をするときに、あとき見たもの・感じたことが生かされています。



写真館で中国式記念写真を撮るのは、中国留学の楽しみの一つです

講座で学んだ中国語を、買い物や日常会話などで使えたことがとても楽しく、言葉や文化を越えて人と繋がるってこういうことなのか！と、とても感動しました。一緒に西安で過ごした仲間や引率の先生とは、10年後の今でも集まって楽しい時間を過ごしています。

（2006年参加・男性）実際に書物で勉強するよりも、頭ではなく肌で中国を理解できる。それが留学の最大の醍醐味だと思います。中国に対する感覚を、そしてグローバル感覚を身につけることができる。今まで自分が当たり前だと思っていたことが、当たり前ではないということ。自分自

身の視野を広げることができました。

(2008年参加・現在北京郵電大学に交換留学中・女性) 海外語学講座で1か月中国を経験したことで、交換留学に行く決断ができました。あとき食や気候になじめたことで、「やっていけそう」と自信ができました。

紙幅の関係で一部しか掲載できませんでしたが、たくさんの先輩方の熱い思いが伝わってきます。学生の今しかできない貴重な体験ができる海外語学講座に、ぜひ積極的に参加して下さい！

「海外語学講座」参加の意味合い(韓国語)

国際言語文化センター教授 金 泰 虎

我々は、1990年代以降、グローバル化時代という言葉をよく耳にします。このタームには、従来とは異なる新しい時代や秩序の到来という意味が内在していると言えます。言い換えれば、諸分野において、今まで通用してきたモデルが新たな形へと変わり、我々の意識や社会の秩序も変化を求められるようになったのです。このグローバル化時代は、国内はもとより国際的に人やものの移動が激しく、世界規模ですべてを思考する転換の時期と特徴づけられるでしょう。

ところで、人々が簡単に国境を超えて交流し合う姿というのは、グローバル化時代を生き抜くための一つの着目点を示しています。つまり、国際的に人の往来が激しいということは、互いの言語でもって意思伝達を行う必要が生まれ、互いの言語を通じて相手の文化を理解しないと真の疎通ができないという場面が出てきます。この点に留意しなければ、互いの話が物別れに終わったり、誤解をしたまま交流を進める、といった問題が浮上するのです。したがって、グローバル化時代において外国語習得は非常に重要なスキルであり、外国語を駆使し、異文化理解の土台ができてこそ、これからの時代で活躍できる人材になれると思います。

ではそうなるためには、どのようなことをして行けばいいのでしょうか。まず、基本的には大学での授業で学習を深めることですが、それに加え、実際、現地に足を運んで勉強したり、体験したりすることが大事だと言えます。そこで、現地における学習の機会として、「海外語学講座」を最も適切なプランとして勧めたいと思います。特に、韓国は隣国であるため、講座費が安く、参加しやすい環境にあります。学習面においても、韓国の社会は日本のシステムと類似しているため近づきやすく、その中で両国の共通点や相違点を学ぶなど、短期間ながらも多くの収穫があると確信しています。

ところで、甲南大学の学生は、海外に出て学ぶという姿勢が弱いように感じられます。その理由として次の2点を指摘できると思います。まず、クローバル化時代到来以前、日本は世界経済を主導しつつ、安定的な社会を構築してきたため、「安定ばけ」しているのが大きな原因と言えます。安定している日本を離れて海外に出向がなくても、ほとんどのことが解決でき、仕事や進路も確保できたからです。もう一つですが、休み期間中に行われる部活の合宿は、変化の意識や海外への好奇心を打ち消す一つの要因になっていると考えられます。部活合宿へ参加しなければ、部活の仲間やコミュニティーから外れることになるため、「海外語学講座」に参加しづらい要因になっているでしょう。

大学生活は、一つの人生の黄金期と言えます。というのは、自由を満喫しながら、受験とは異なる学びを通じて自分を磨く絶好の機会であり、また努力次第では無限の可能性が広がっていくからです。人生における今の自分の立ち位置を意識し、この時期を有効に活用して下さい。部活動や友人とのコミュニケーションはとても大切な活動ですが、それと同じく、異文化に触れるという経験も大変、貴重なものです。社会に出ては、「海外語学講座」のような企画に参加するのは難しいと言えます。大学時代における経験は、社会に出てから何十倍にもなってその値打ちを発揮してくれるはずで、将来の就職活動やより充実した人生へと進むため、ふるって「海外語学講座」に参加して下さい。

夏期日本語集中講座

国際言語文化センター日本語特任講師 富 阪 容 子

毎年、6月から7月にかけて6週間の甲南大学夏期日本語集中講座が開講されています。このプログラムにはハワイ大学やイリノイ大学を初めとする海外からの参加者を迎えています。既に10年以上にわたる交流の歴史を持つハワイ大学のホームページを見ると、このプログラムについて次のように紹介されています。

This program is designed for students who wish to complete their second-year foreign language requirement at the University of Hawaii at Manoa. The primary focus of the curriculum is Japanese language training, with specific emphasis on the development of speaking and listening skills. Students attend the intensive summer language classes four hours per day for six weeks. Additionally, two hours per week, students will participate in supervised experiential learning and attend lectures in English on topics concerning Japanese life and culture throughout the duration of the program. Classroom instruction is supplemented by field trips and extracurricular activities.

甲南大学夏期日本語集中講座は日本語を約1年間学習した人が2年目の課程を学習するための海外語学講座です。6週間という限られた期間で集中的に学ぶコースですから、言語の4技能というよりも、話す&聞くという2技能に重点が置かれています。基礎的な文型学習にとどまらず、体験学習やフィールドトリップ及び、日本文化に関する講義や実技が加わることがその特色とされています。自分の大学でも言語学習は可能でしょうが、それでもなおかつ海外へ留学するのはそれだけ大きな魅力があるからに違いありません。実際、これまで参加した多くの学習者は6週間で経験したことが忘れられず、何度も何度も来日しています。

アメリカのコネチカット州出身のM君は日本語を習う目的でハワイ大学に入学したそうです。彼は数年前に甲南大学夏期日本語集中講座を受講して2年目の日本語を学習しました。ハワイ大学に戻って3年目の学習を続けた後、再び来日して甲南大学で1年間の日本語コースを受講して帰国しました。最近、来日して顔を見せてくれた時には「日本の大学院へ入りたいんですが、そのために不足している学力をどうやって補ったらいいでしょうか」との質問を投げかけました。留学中にはそれほど熱心な学生とは思えなかったM君ですが、夏期日本語のために留学したことが新しい人生への第一歩になったようです。あきらめることなく引き続き努力を続けてもらいたいものです。

留学することによって得られた異文化体験や人との出会いが何よりも貴重なものです。わずか6週間の夏期日本語集中講座に参加した学生がその後、何年後かに再び甲南大学を訪れると、別人のように成長して自信を持っている姿を目の当たりにします。教え子の成長ぶりを見るのは実にうれしいことです。学生のみなさん、勇気を持って最初の一步を踏み出してみましょ。自分の殻を破って外界に飛び出してみませんか。きっと新しい発見や出会いがあるはずですよ。

